

日本比較教育学会 第53回大会プログラム

*Japan Comparative Education Society
The 53rd Annual Conference*

日 時： 2017年6月23日(金)～25日(日)

場 所： 東京大学本郷キャンパス

主 催： 日 本 比 較 教 育 学 会

《 大 会 日 程 》

	6月23日 (金)	6月24日 (土)	6月25日 (日)
8:00		8:00～ 受付 (法文1号館1F)	8:00～ 受付 (法文1号館1F)
9:00		9:00～11:30 自由研究発表 I (法文1号館)	9:00～11:30 自由研究発表 III (法文1号館)
10:00		I - 1(215) I - 2(219) I - 3(312) I - 4(314) I - 5(315) I - 6(316) I - 7(317) I - 8(212) I - 9(214)	III - 1(219) III - 2(314) III - 3(315) III - 4(316) III - 5(312) III - 6(317) III - 7(319) III - 8(212) III - 9(214) III - 10(215)
11:00		11:30～12:30 紀要編集委員会 (法文1号館)	11:30～12:30 昼食
12:00	12:00～ 受付 (教育学部棟1F)		
	12:30～14:00 常任理事会 (教育学部第1会議室)	12:30～14:30 自由研究発表 II (法文1号館)	12:30～14:30 自由研究発表 IV (法文1号館)
13:00		II - 1(219) II - 2(215) II - 3(314) II - 4(312) II - 5(315) II - 6(212) II - 7(214)	IV - 1(314) IV - 2(315) IV - 3(316) IV - 4(317) IV - 5(212) IV - 6(219) IV - 7(214) IV - 8(215) IV - 9(312)
14:00	14:15～17:30 全国理事会 (教育学部第1会議室)		
15:00		14:45～17:20 公開シンポジウム (安田講堂)	14:45～17:00 課題研究 I (法文1号館・21番教室)
16:00			課題研究 II (法文1号館・22番教室)
17:00	17:30～ 受付 (法文1号館1F)	17:30～18:30 総会 (安田講堂)	
18:00	18:00～20:00 ラウンドテーブル (法文1号館)	18:30～20:30 情報交換会 (中央食堂)	
20:00			

大会参加者へのご案内

1 受付

大会受付は、6月23日（金）は17時30分より、24日（土）・25日（日）は8時より、法文1号館1階において行います。6月23日（金）午後の常任・全国理事会の受付は、12時より教育学部棟にて行います。

2 大会参加費等

大会参加費は、通常会員・臨時会員 5,000 円（事前振込 4,000 円）、学生会員 4,000 円（事前振込 3,000 円）となります。また、情報交換会参加費については、通常会員・臨時会員 4,000 円（事前振込 3,500 円）、学生会員 3,000 円（事前振込 2,500 円）となります。

*事前申込・事前振込の受付は、2017年5月31日（水）18時が締切となります。

大会参加申込システム SOLTI (<https://service.gakkai.ne.jp/society-member/auth/apply/JCES>) から申込を行って下さい。

3 大会本部

法文1号館1階に設置します。

4 会員控室

法文1号館1階に設置しますのでご利用ください。

5 託児室

会場に託児室は併設しておりません。会場周辺の託児サービスの情報が必要な会員は大会事務局（jces53tokyo@gmail.com）にお問い合わせください。

6 常任理事会・全国理事会・紀要編集委員会

常任理事会は6月23日（金）12時30分より、全国理事会は同日14時15分より教育学部棟2階第1会議室にて行います。紀要編集委員会は24日（土）11時30分より法文1号館内の会議室（場所未定）にて行います。

7 大会期間中の昼食

昼食は、大会開催期間中も中央食堂が営業する予定（営業時間：11：00～14：00）ですのでご利用下さい。またキャンパス周辺にも飲食店が多数ございます。

8 情報交換会会場

6月24日（土）18時30分より中央食堂にて情報交換会を開催します。安田講堂の地下が食堂となっており、そこが会場となります。

自由研究発表について

1 発表時間

個人研究発表の時間は、発表 20 分、質疑 10 分の計 30 分となります。共同研究発表の場合は、30 分（発表 20 分、質疑 10 分）もしくは 60 分（発表 40 分、質疑 20 分）です。各部会での総括討論はありません。発表者も移動していただいて結構です。なお、各発表の間には休憩時間を設けておりませんので、ご注意ください。司会者の方には、質疑時間の有効な活用をお願いいたします。

2 発表資料

発表の際に配布する資料は、あらかじめご用意の上、各会場係にお渡しください。会場係が配布いたします。なお、会場でのコピーのご要望には応じられませんので、ご了承ください。

3 発表用機器

パソコンとプロジェクターは会場に設置しております。個人用パソコンのご使用は、発表申込時にご連絡いただいた方のみに限らせていただきます。なお、Mac を使用される方はコネクターをご自身でご準備くださいますよう、お願いいたします。

4 発表取り消しの場合

速やかに大会事務局にご連絡下さい。なお、発表取消の場合、時間の繰上げは行いません。

日本比較教育学会第 53 回大会事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学大学院教育学研究科・北村友人研究室気付

E-mail: jces53tokyo@gmail.com

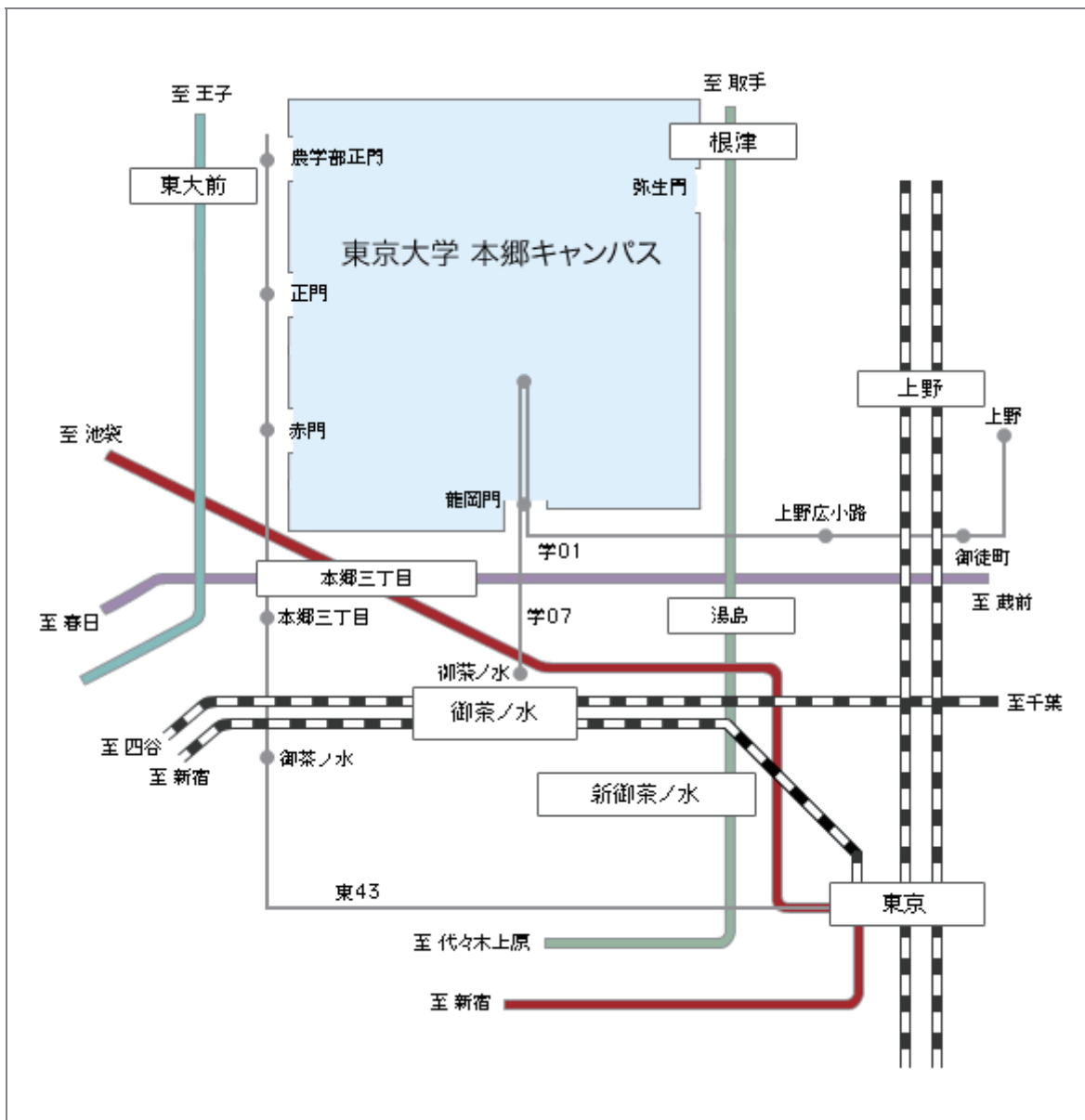
交通のご案内

※交通公共機関をご利用ください。

東大本郷へのアクセス

本郷キャンパス 〒113-8654 文京区本郷 7-3-1

本郷アクセスマップ http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/map01_02_j.html



- 本郷三丁目駅（地下鉄丸の内線）から徒歩 8 分
- 本郷三丁目駅（地下鉄大江戸線）から徒歩 6 分
- 湯島駅又は根津駅（地下鉄千代田線）から徒歩 8 分
- 東大前駅（地下鉄南北線）から徒歩 1 分
- 春日駅（地下鉄三田線）から徒歩 10 分

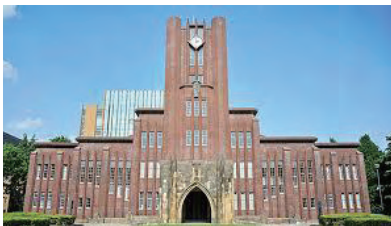
乗り継ぎ方法

御茶ノ水駅 (JR 中央線、総武線)	地下鉄利用	丸の内線(池袋行) — 本郷三丁目駅下車
	地下鉄利用	千代田線(取手方面行) — 湯島駅又は根津駅下車
	都バス利用	茶 51 駒込駅南口又は東 43 荒川土手操車所前行 東大(赤門前、正門前、農学部前バス停)下車
	学バス利用	学 07 東大構内行 — 東大(龍岡門、病院前、構内バス停)下車
御徒町駅 (JR 山手線等)	都バス利用	都 02 大塚駅前又は上 69 小滝橋車庫前行 — 本郷三丁目駅下車
		都 02 大塚駅前又は上 69 小滝橋車庫前行 — 湯島四丁目下車
上野駅 (JR 山手線等)	学バス利用	学 01 東大構内行 — 東大(龍岡門、病院前、構内バス停)下車

本郷キャンパスのご案内



安田講堂



公開シンポジウム・総会
情報交換会（中央食堂）

法文1号館



自由研究発表・ラウンド
テーブル・課題研究

教育学部棟



常任理事会・全国理事会

他参考：

本郷地区キャンパスガイドマップ [PDF] <http://www.u-tokyo.ac.jp/content/400002228.pdf>

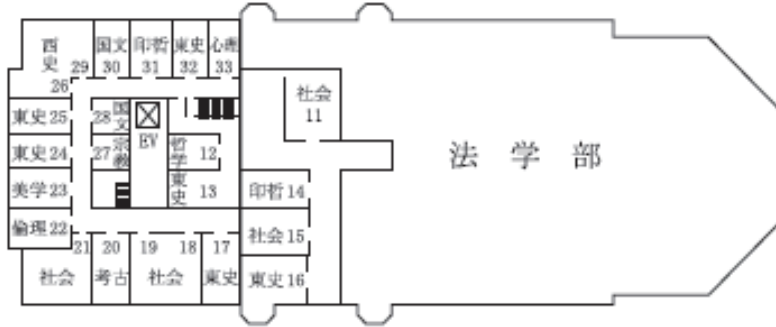
法文1号館 教室配置図

文学部教室・研究室案内図

法文1号館

() は定員
 ☆は講義室
 ◎は研究室事務室

4階



3階



2階

出版社ブース
(216 / 217)

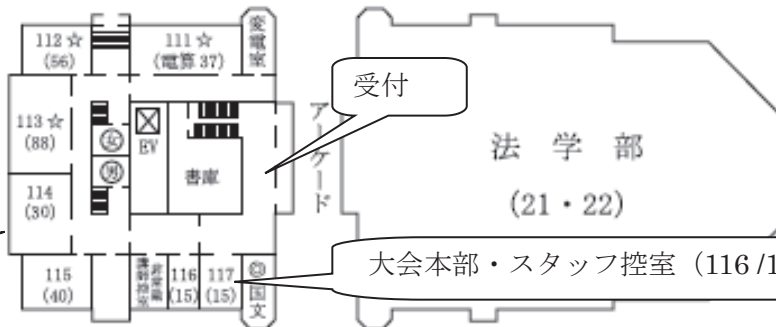


1階

会員控室
(114 / 115)

受付

大会本部・スタッフ控室 (116 / 117)



自由研究発表

6月24日（土） 自由研究発表Ⅰ		6月25日（日） 自由研究発表Ⅲ	
（午前）9：00～11：30		（午前）9：00～11：30	
I-1 東アジア地域（1）	215	Ⅲ-1 東アジア地域（3）	219
I-2 東南アジア地域（1）	219	Ⅲ-2 東南アジア地域（2）	314
I-3 北米地域（1）	312	Ⅲ-3 北米地域（2）	315
I-4 ヨーロッパ地域（1）	314	Ⅲ-4 ヨーロッパ地域（2）	316
I-5 国際教育・教育交流	315	Ⅲ-5 開発と教育（2）	312
I-6 アフリカ地域	316	Ⅲ-6 初等・中等教育	317
I-7 生涯学習	317	Ⅲ-7 多文化教育	319
I-8 高等教育（1）	212	Ⅲ-8 高等教育（3）	212
I-9 International Education, Educational Interaction	214	Ⅲ-9 Development and Education(2)	214
		Ⅲ-10 Primary and Secondary Education	215
6月24日（土） 自由研究発表Ⅱ		6月25日（日） 自由研究発表Ⅳ	
（午後）12：30～14：30		（午後）12：30～14：30	
Ⅱ-1 中南米地域	219	Ⅳ-1 東南アジア地域（3）	314
Ⅱ-2 東アジア地域（2）	215	Ⅳ-2 ヨーロッパ地域（3）	315
Ⅱ-3 オセアニア地域	314	Ⅳ-3 教師教育・教員問題	316
Ⅱ-4 開発と教育（1）	312	Ⅳ-4 教育と地域社会	317
Ⅱ-5 幼児教育	315	Ⅳ-5 理論・思想・歴史	212
Ⅱ-6 高等教育（2）	212	Ⅳ-6 教育の機会	219
Ⅱ-7 Development and Education(1)	214	Ⅳ-7 多国間比較	214
		Ⅳ-8 高等教育（4）	215
		Ⅳ-9 Multicultural Education	312

シンポジウム・課題研究

6月24日（土） 14：45～17：20		6月25日（日） 14：45～17：00	
公開シンポジウム		課題研究Ⅰ	
教育モデルが国境を越える時代を俯瞰 するー比較教育学の原点にもどるー	安田講堂	グローバル化時代における大学の国際比 較ー世界大学ランキングを越えてー	法文1号館 21番教室
		課題研究Ⅱ	
		グローバル化時代における教育を考える （Ⅱ）ー才能教育の視点からー	法文1号館 22番教室

ラウンドテーブル

2017年6月23日（金） 18：00－20：00

【研究委員会企画】比較教育学研究におけるリサーチ・スキル

企画者: 山内 乾史 (神戸大学)

司会者: 山内 乾史 (神戸大学)

発表者: 原 清治 (佛教大学) 中矢 礼美 (広島大学) 小川 啓一 (神戸大学)

内容説明: 研究委員会では若手研究者に対する研究支援事業の一環として、一昨年度はアカデミック・ライティング、昨年度はアカデミック・プレゼンテーションをテーマにラウンドテーブルを開催しました。今年度はリサーチ・スキルをテーマにラウンドテーブルを開催します。量的研究について小川啓一会員、質的研究について原清治会員、エスノグラフィーについて中矢礼美会員に話題提供をしていただきます。若手研究者の方々、大学院生の方々はふるってご参加ください。

民衆の視点から捉えなおす中国の教育改革

企画者: 武 小燕 (名古屋経営短期大学)

司会者: 日暮 トモ子 (目白大学)

発表者: 武 小燕 (名古屋経営短期大学) 金 龍哲 (神奈川県立保健福祉大学)
阿古 (城山) 智子 (東京大学) 日暮 トモ子 (目白大学)

内容説明: 近代学校は国家による国民形成の要望と民衆による生活改善の要望の2つのベクトルを持ち合わせて発展してきた。今日の教育改革も例外ではない。本企画では制度化された仕組みへの関心と異なり、民衆たちは教育に何を期待し、何を批判しているかに注目し、民衆の言説と生活の視点から中国の教育改革を捉えなおすことの必要性を論じたい。

比較教育学の知の省察

— これからの比較教育学を考える (3) —

企画者: 馬場 智子 (岩手大学)

司会者: 萩巢 崇世 (名古屋大学)

発表者: 橋本 憲幸 (山梨県立大学) 徳永 智子 (慶應義塾大学) 関口 洋平 (神戸大学)

内容説明: 本企画は、若手の会員が学び合う「場」を作りたいという思いから提案したものである。第三回は、我々が研究や教育実践を通して生み出している「知」について、ポストコロニアリズムの視点を踏まえて批判的に考える。研究・教育における個人のスタンスを相対的に位置づけつつ、日本の比較教育学の「知」の特異性や意義についても論じたい。

学力テストとスタンダードを軸とする教育ガバナンス構造の実態

企画者: 佐藤 仁 (福岡大学)

司会者: 黒田 友紀 (日本大学)

発表者: 佐藤 仁 (福岡大学) 森本 洋介 (弘前大学) 申 智媛 (帝京大学短期大学)
高橋 望 (群馬大学)

内容説明: 21世紀以降、学力テストとスタンダードは、グローバルな教育政策の潮流の一つとして存在感を増してきた。しかし、当然ながらすべての国が、英米に代表されるような「ハイ・ステイクス」なシステムを取り入れているわけではない。本ラウンドテーブルでは、カナダ、韓国、ニュージーランド、ノルウェーを取りあげ、学力テストとスタンダードが教育ガバナンス構造の中でどのように機能しているのかを比較検討する。

English-Medium Instruction in Japanese Higher Education —Policy, Challenges, and Outcomes—

Organizer: Annette Bradford (Meiji University)

Chair: Annette Bradford (Meiji University)

Presenters: Annette Bradford (Meiji University), Hiroshi Ota (Hitotsubashi University),
Sae Shimauchi (Waseda University)

Description: The number of courses and programs taught in English at Japanese universities is growing rapidly. This round table will discuss trends in this growth, and examine implementation challenges, particularly those concerning access to programs and gender imbalances in English-medium programs.

SDGs 時代における途上国の教員政策 —課題と展望—

企画者: 興津 妙子 (大妻女子大学)

司会者: 馬場 卓也 (広島大学)

発表者: 近森 憲助 (鳴門教育大学) 石原 伸一 (国際協力機構)

小原 優貴 (東京大学) 川口 純 (筑波大学)

内容説明: 2015年に国際社会が合意した「持続可能な開発目標(SDGs)」や「仁川宣言(教育2030)」では、2030年までにすべての人に包摂的で質の高い教育を確保することを掲げ、その実現のための中心的アクターとして教員を位置付けている。これらの国際目標で描かれている学力観は「コンピテンシー」など新しい学力観と重なり合うが、こうした新たな時代において開発途上国の「教職」はどのような岐路にあるのだろうか。そして国際協力のあるべき姿とはどのようなものであろうか。本ラウンドでは、こうした問題関心にもとづき、アジア、アフリカ諸国の事例から、途上国における教員政策と国際協力の課題を検討する。

Global Citizenship and Innovative Education in Debate

企画者: 杉村 美紀 (上智大学)

司会者: 杉村 美紀 (上智大学)

発表者: James. H Williams (George Washington University)

デレク ケンジ ピニロス マツダ (お茶の水女子大学) 林 芷伊 (上智大学大学院)

内容説明: “Global Citizenship Education” and “Innovative Education” are mentioned quite often in a discussion on Education 2030 for Sustainable Development Goals. However, there has been lots of debates on the concepts. The purpose of this roundtable is to discuss what roles of “global citizenship” and “innovative education” can take through the opportunities of learning with the 21st skills for qualitative human resource development and well-being at national but also regional and global levels.

教育の「北欧モデル」は存続するか？

—各国の状況、事例から—

企画者: 佐藤 裕紀 (新潟医療福祉大学)

司会者: 太田 美幸 (一橋大学)

発表者: 佐藤 裕紀 (新潟医療福祉大学) 澤野 由紀子 (聖心女子大学)

渡邊 あや (津田塾大学) 原田 亜紀子 (東京大学大学院)

内容説明: 北欧諸国の教育政策において OECD や EU の影響力が増している。国際競争力を高める立場からの学力観の見直し、学力評価の重視、教育の国際化、ヨーロッパ化、新自由主義的手法による改革が進行する中、教育の北欧モデルは存続しうるのだろうか。本企画では、この問いに対する各国の状況を報告し、新たな北欧的方法の可能性を議論したい。

『古遺物研究(antiquary)』の比較教育学を考える ーミクロな、そしてイーミックな・・・?ー

企画者: 服部 美奈 (名古屋大学)

司会者: 西野 節男 (名古屋大学)

発表者: 中田 有紀 (東洋大学) 高橋 まりな (名古屋大学大学院)

山田 肖子 (名古屋大学)

内容説明: 異文化の深い記述は「古遺物研究家」の仕事に通じる面がある。『古遺物』を子細に探求することがより広く大きな世界認識(歴史認識)に通じるというミクロストリアの手法は比較教育学の事例研究の進め方にも大きな示唆を与える。目利きで専門性に裏付けられた「古遺物研究」が、noviceによる事例記述とは異なり、いかに比較教育学研究を面白くするかを考えてみたい。

アセアン共同体における市民性教育の現状と課題

企画者: 平田 利文 (大分大学)

司会者: 平田 利文 (大分大学)

発表者: 森下 稔 (東京海洋大学) 鴨川 明子 (山梨大学) 羽谷 沙織 (立命館大学)

乾 美紀 (兵庫県立大学) 手嶋 将博 (文教大学) 長濱 博文 (桐蔭横浜大学)

池田 充裕 (山梨県立大学) 鈴木 康郎 (高知県立大学) 石村雅雄 (鳴門教育大学)

内容説明: 2015年11月、「アセアン共同体」が創設された。平成22-25年度の科研(基盤研究A)の調査結果をまとめ、学振の出版助成によって出版された平田利文編著『アセアン共同体の市民性教育』(東信堂, 2017年2月出版)をもとに、アセアン各国が共同体として市民性教育をどのように推進しているのか、どのような課題を抱え、その解決にどのように取り組んでいるかについて議論したい。

自由研究発表 I

2017年6月24日（土） 9:00—11:30

自由研究発表 I-1

6月24日(土) 9:00-11:00

教室: 215 教室

東アジア地域(1)

司会: 一見 真理子(国立教育政策研究所)

- 9:00-9:30 モンゴルの大学における理事会の特質
- 学生の参加を中心に
ジャルガルマー ジャルガルサイハン(京都大学大学院)
- 9:30-10:00 中国の高等教育における大陸外中国人学生のナショナルアイデンティティに関する
研究- 広東省暨南大学を事例として
庄 瑜(広島大学大学院)
- 10:00-10:30 韓国における大学教育の改革と展開
- 学部教育先導大学育成(ACE)事業に焦点をあわせて
全 京和(京都大学大学院)
- 10:30-11:00 韓国女子専門学校の誕生
- 梨花と淑明の設立人物を中心に
○趙 文淑(高麗大学) ○韓 龍震(高麗大学)
- 11:00-11:30 地方の私立大学における国際化コストの分担について
- 日本と韓国の事例比較から
佐藤 由利子(東京工業大学)
-

自由研究発表 I-2

6月24日(土) 9:00-11:30

教室: 219 教室

東南アジア地域(1)

司会: 鴨川 明子(山梨大学)

- 9:00-9:30 タイの大学教育における質保証と学生支援
- チェンマイ大学における質保証と障害学生支援
小川 勤(山口大学)
- 9:30-10:00 小学校外国語活動における授業改善に関する実践
- アジア諸国の小学校英語授業との比較の視点を通して
○川北 雅冬(松戸市立中部小学校) ○手嶋 将博(文教大学)
- 10:00-10:30 NLD 政権下のミャンマー高等教育 - 人材育成における役割
上別府 隆男(福山市立大学)
- 10:30-11:00 教育汚職の歴史的変遷 - カンボジアを事例として
前田 美子(大阪女学院大学)
- 11:00-11:30 インドネシアの中等教育における学力の規定要因分析 - PISA を事例に
島田 健太郎(京都大学)

北米地域(1)

司会: 吉良 直 (東洋大学)

- 9:00-9:30 才能教育のユニバーサル化と教育機会の公平性
 - アメリカ合衆国のマイノリティ・アクセス問題に焦点を当てて
 関内 偉一郎 (筑波大学大学院)
- 9:30-10:00 アメリカの高等教育における支援の一形態としての「ピア」の成立と拡大
 住野 満稲子 (東京大学大学院・日本学術振興会特別研究員)
- 10:00-10:30 聴覚障害者を対象とする高等教育におけるリベラル・アーツ
 - 米国ギャローデット大学の歴史と現状
 原田 早春 (慶應義塾大学大学院)
- 10:30-11:00 アカデミック・アドバイジング - カナダ公立総合大学理学部において専門職員(アカデミック・アドバイザー)が留学生に提供するアカデミック・サービスについて
 池上 由布子 (ブリティッシュ・コロンビア大学)
- 11:00-11:30 米国社会科教員養成における評価の研究
 - ed-TPA およびその準備事例から
 川上 具美 (西南学院大学)
-

ヨーロッパ地域(1)

司会: 植田 みどり (国立教育政策研究所)

- 9:00-9:30 ドイツのアビトゥーア試験
 - 「歴史科」の問題を中心にして
 木戸 裕 (東洋大学非常勤講師)
- 9:30-10:00 デンマークの大学進学システムと普通高校における進路決定の仕組みについて
 堀井 祐介 (金沢大学)
- 10:00-10:30 イギリスの資格試験制度におけるバカロレア型資格の展開
 花井 渉 (福井大学)
- 10:30-11:00 ジェンダーから見たチェコ高等教育の現状と課題
 - 女性研究者の周縁性を中心に
 石倉 瑞恵 (石川県立大学)
- 11:00-11:30 英国キャンパス・ノベルに描かれた大学
 - 小説を分析対象とする教育研究の試み
 高橋 まりな (名古屋大学大学院)

自由研究発表 I-5

6月24日(土) 9:00-11:30

教室: 315 教室

国際教育・教育交流

司会: 黒田 千晴 (神戸大学)

- 9:00-9:30 日本在住のモンゴル人留学生に関する研究
ー近年のモンゴルの高等教育政策における「海外留学」に着目して
Ariuntuya Myagmar (一橋大学)
- 9:30-10:00 英語による専門科目の授業 (EMI) 担当教員の陣容と実践現場の状況に関する一考察ー日本の大学の場合
桑村 昭 (愛知県立大学)
- 10:00-10:30 大学教育における「教授言語としての英語」の導入と課題 ー比較的視点から
鶴田 洋子 (明治学院大学非常勤講師)
- 10:30-11:00 日本の大学生の海外留学動機と学修成果
正楽 藍 (神戸大学)
- 11:00-11:30 中国における日本学研究者養成の変化
ー北京日本学研究中心修了者を事例に
李 敏 (信州大学)
-

自由研究発表 I-6

6月24日(土) 9:00-11:30

教室: 316 教室

アフリカ地域

司会: 山田 肖子 (名古屋大学)

- 9:00-9:30 ベナン共和国の公教育における「宗教」と「伝統文化」
ー小学校社会科教科書に注目して
深堀 聡子 (名古屋大学大学院)
- 9:30-10:00 縦断的データで見る個々人の修学軌跡
ーザンビア地方都市における初等教育の事例
江崎 那留穂 (関西学院大学大学院)
- 10:00-10:30 タンザニアにおける中等公民教科書分析ーシティズンシップの視点から
佃 瞳 (名古屋大学大学院)
- 10:30-11:00 初等教育無償化政策下における学校選択要因の分析
ーウガンダ農村部を事例として
坂上 勝基 (大阪大学)
- 11:00-11:30 カメルーンにおける初等理科教育の現状と課題
○小澤 大成 (鳴門教育大学) 石村 雅雄 (鳴門教育大学)
田村 和之 (鳴門教育大学) 石坂 広樹 (鳴門教育大学)

自由研究発表 I-7

6月24日(土) 9:00-11:30

教室: 317 教室

生涯学習

司会: 岩崎 久美子 (放送大学)

- 9:00-10:00 高等教育機関における成人向け継続教育の国際比較
○夏目 達也 (名古屋大学) ○澤野 由紀子 (聖心女子大学)
○沖 清豪 (早稲田大学) ○渡辺 達雄 (金沢大学)
南部 広孝 (京都大学) 佐藤 裕紀 (新潟医療福祉大学)
廖 于晴 (京都大学) 五島 敦子 (南山大学)
- 10:00-10:30 認知症に優しい地域づくりに向けた生涯学習関連施設の果たしうる役割
ー英国・ブラッドフォードカレッジを事例として
鈴木 尚子 (徳島大学)
- 10:30-11:00 災害の記憶に学ぶ
ーネパール・ゴルカ大地震の事例
長岡 智寿子 (日本女子大学)
- 11:00-11:30 アメリカの学習支援政策
江原昭博 (関西学院大学)
-

自由研究発表 I-8

6月24日(土) 9:00-11:30

教室: 212 教室

高等教育(1)

司会: 杉本 和弘 (東北大学)

- 9:00- 9:30 エジプト高等教育質保証における国家教育質保証・適格認定機構 (NAQAAE) の役割・機能と課題
中島 悠介 (大阪大谷大学)
- 9:30-10:00 ベトナム高等教育における質保証制度の特質と課題
近田 政博 (神戸大学)
- 10:00-10:30 インドネシアの高等教育における分野別質保証の動向に関する考察
ー医学教育を中心に
和氣 太司 (医学教育振興財団)
- 10:30-11:00 韓国高等教育における保育者養成の効率性分析
○長島 万里子 (洗足こども短期大学)
○長島 弥史郎 (日本開発構想研究所)
- 11:00-11:30 ブラジルの高等教育における質保証
ー学習成果試験をめぐる対応事例
山口 アンナ真美 (北海道教育大学非常勤講師)

English 1 : International Education, Educational Interaction

Chair person : Akito Okada (Tokyo University of Foreign Studies)

- 9:00-9:30 Analysis on College Students Who Do Not Go Abroad to Study
Naoji Yamagishi (Waseda University)
- 9:30-10:00 Public Policies for Female Faculty
-Comparing Historical Contexts in Canada and Japan
Noriko Inuzuka (Den-en Chofu University)
- 10:00-11:00 International Education in Indonesia and Japan
-Meanings of Globalization on Education for Student and Parents
○Junita Widiati Arfani (Graduate Student, Hiroshima University)
○Ayami Nakaya (Hiroshima University)

自由研究発表Ⅱ

2017年6月24日(土) 12:30-14:30

自由研究発表Ⅱ-1

6月24日(土) 12:30-14:30

教室: 219 教室

中南米地域

司会: 斉藤 泰雄 (国立教育政策研究所・名誉所員)

12:30-13:00 ボリビアでの経験を通して

ー文化・慣習と教育

堀場 萌枝 (鳴門教育大学大学院)

13:00-13:30 ジャマイカにおける算数教育の現状と課題

山田 智英 (鳴門教育大学大学院)

13:30-14:00 1980~90年代のペルーにおけるテロの経験と反省

ー教育の役割と政治意識の高揚に着目して

工藤 瞳 (専修大学非常勤講師)

14:00-14:30 ブラジルの校長直接選挙の展開における現実と課題

ー北部パラ州における教育行政と学校の関係

田村 徳子 (びわこ成蹊スポーツ大学)

自由研究発表Ⅱ-2

6月24日(土) 12:30-14:30

教室: 215 教室

東アジア地域 (2)

司会: 松本 麻人 (文部科学省)

12:30-13:00 中国西南における少数民族の信仰体系と宗教的職能者の現在

ーモソ人の事例に見る伝統文化伝承のもう一つの課題

金 龍哲 (神奈川県立保健福祉大学)

13:00-13:30 エスニック・マイノリティの子どもたちの教育における地方行政の関わり

ー戦後の日本の例をもとに

橋本 彩花 (青山学院大学)

13:30-14:00 香港における「一国二制度世代」へのシティズンシップ教育

ー「批判的愛国者」モデルの検証を中心に

中井 智香子 (香港大学)

14:00-14:30 日本と韓国における教育期待と階層

ー中学・高校を通じた志向性の分化

森 いづみ (東京大学)

オセアニア地域

司会: 見世 千賀子 (東京学芸大学)

- 12:30-13:00 外国語教育における内容言語統合型学習 (CILL) の考察
 - オーストラリア・ビクトリア州を事例として
 奥村 真司 (武庫川女子大学)
- 13:00-13:30 オーストラリア、クイーンズランド州におけるカリキュラム改革
 - 北部遠隔地先住民コミュニティへの影響を中心に
 青木 麻衣子 (北海道大学)
- 13:30-14:00 パプアニューギニアでのワークシートを使った分数の学習に関する一考察
 枘富 明 (鳴門教育大学大学院)
- 14:00-14:30 オーストラリア・遠隔地学校における教員人事の現状と課題
 伊井 義人 (藤女子大学)
-

開発と教育(1)

司会: 西村 幹子 (国際基督教大学)

- 12:30-13:00 ケネディ後の「進歩のための同盟」と対ラテンアメリカ教育分野の取り組み
 江原 裕美 (帝京大学)
- 13:00-13:30 マダガスカルの中中等教育の現状と展望
 - 中等教育の拡大は何をもたらすのか
 澤村 信英 (大阪大学)
- 13:30-14:00 アフリカにおける市民育成の方向性
 山崎 瑛莉 (上智大学)
- 14:00-14:30 国際教育協力の公平性効果の探求
 - セネガルにおける授業研究支援の事例
 田中 紳一郎 (国際協力機構)

自由研究発表Ⅱ-5

6月24日(土) 12:30-14:30

教室: 315 教室

幼児教育

司会: 柴山 真琴 (大妻女子大学)

- 12:30-13:00 子どもの教育を受ける権利を保障するための幼稚園教諭の役割
ー スリランカを事例に
岡本 弘子 (名古屋経営短期大学)
- 13:00-13:30 バングラデシュにおける就学前教育無償化と教育の質
門松 愛 (名古屋女子大学)
- 13:30-14:00 ブルキナファソの幼稚園教育の現状と課題
舟津 香菜美 (鳴門教育大学大学院)
- 14:00-14:30 オランダにおける乳幼児期の教育とケアに関する研究
ー チャイルドケア法に焦点を当てて
福田 紗耶香 (九州大学大学院)
-

自由研究発表Ⅱ-6

6月24日(土) 12:30-14:30

教室: 212 教室

高等教育(2)

司会: 秋庭 裕子 (一橋大学)

- 12:30-13:00 新興国マレーシアで学ぶ留学生の進路選択
ー トランスナショナル教育と従来型教育に着目して
金子 聖子 (大阪大学)
- 13:00-13:30 メコン川流域諸国の大学環境と学生交流事業の発展の可能性
ー ACTFA24 大学の調査結果から
堀田 泰司 (広島大学)
- 13:30-14:00 アフリカにおける大学間ネットワークの現状と課題
ー 汎アフリカ大学(Pan African University)を事例に
○梅宮 直樹 (国際協力機構) ○米澤 彰純 (東北大学)
- 14:00-14:30 国際共同教育プログラムが大学の教育・研究活動に与えた影響
ー 日本とインドネシアの大学間双方向プログラムを事例として
小澤 みどり (早稲田大学大学院)

English 2 : Development and Education (1)

Chair person : Riho Sakurai (Hiroshima University)

- 12 : 30－13 : 00 An Analysis of Labor Market Outcomes of Vocational Education Graduates
in Republic of Korea
－Focused on Private Tutoring Expenditure
Seonkyung Choi (Graduate Student, Kobe University)
- 13 : 00－13 : 30 “A Study of Teachers’ and Educational Administrators’
Perceptions of Technical Meeting in Cambodia
－A Case of Two Primary School Clusters in Kandal Province”
Hay Pich (Graduate Student, Hiroshima University)
- 13 : 30－14 : 00 Financing on Education in Kyrgyz Republic
Keiichi Ogawa (Kobe University)

公開シンポジウム

2017年6月24日（土） 14：45－17：20

教育モデルが国境を越える時代を俯瞰する

—比較教育学の原点にもどる—

東京大学教育学部附属学校教育高度化・効果検証センターとの共催

(同時通訳有り)

※同時通訳機材を先着 300 名様にご利用いただけます。ご希望の方は、以下のフォームより予約を入れて下さい。 (日本語版) <https://goo.gl/forms/DHGcXuxhQTH78tn62>

(English Version) <https://goo.gl/forms/xEIT2sAV5i6Blqan2>

日時：2017年6月24日(土) 14時45分～17時20分

場所：東京大学本郷キャンパス 安田講堂

趣旨説明・司会 恒吉 僚子 (東京大学大学院教育学研究科・教授)

「フィンランドの教育モデル」 Riitta Vänskä (Board Member at Invalidisäätiö, Program Manager, Education Export Finland)

「シンガポールの教育モデル」 Goh Chor Boon (Associate Dean, National Institute of Education, Singapore)

「日本の教育モデル」 佐藤 学 (学習院大学文学部・教授)

指定討論 丸山 英樹 (上智大学グローバル教育センター・准教授)

<論点>

モデル借用自体は比較教育学が古くから関心を寄せてきたテーマである。植民地支配の形で強制的性格を持つものも含め、歴史的にも世界中で見られる現象である。だが、我々の時代の教育的意味での特徴は、様々な教育モデルが国民国家の枠を越えて今まで以上に容易にグローバルに拡散してゆくことであろう。PISA, TIMSS などの国際学力テストにおいて「成功例」とされる国々の教育モデルからの示唆を諸外国が求め、そうした、ある国やある文化的文脈で生まれた教育モデルがたやすくインターネット等で拡散し、ビジネスとして成立してゆく。

こうした時代状況を、我々はどのように理解し、対応すべきなのであろうか？ある国から生まれたモデルが、グローバル化、あるいは、かつてない規模で他国に移植される中で、何が起き、どのようなメカニズムが働いているのか。モデル借用は比較教育学の対象テーマで長くあり続けてきたが、そこからどのような知見が得られ、新しいグローバルビジネス時代の教育モデル借用に対して何が提示できるのか。こうした問いをフィンランド、シンガポール、日本のいずれも世界的に関心を持たれている教育モデルの具体例を通して考える。

自由研究発表Ⅲ

2017年6月25日（日） 9：00—11：30

自由研究発表Ⅲ-1

6月25日(日) 9:00-11:00

教室: 219 教室

東アジア地域(3)

司会: 楠山 研(長崎大学)

- 9:00-9:30 教科書にみる戦後台湾における英語教育の変遷
-学習指導要領準拠版(1971年~2008年)高等学校英語教科書の題材内容研究から
平井 清子(北里大学)
- 9:30-10:00 魯迅撤退論と中国の国語教育改革
武 小燕(名古屋経営短期大学)
- 10:00-10:30 韓国初等教育における「体験学習」の諸問題
朴 貞蘭(大分県立芸術文化短期大学)
- 10:30-11:00 中国の「義務教育均衡発展」をめざす学校間協力の展開
-北京の「中学校深度連盟」を中心に
劉 靖(名古屋大学)
-

自由研究発表Ⅲ-2

6月25日(日) 9:00-11:30

教室: 314 教室

東南アジア地域(2)

司会: 森下 稔(東京海洋大学)

- 9:00-9:30 ラオス山岳地帯における小学校運営の成功要因を探る
-3村の比較調査から
乾 美紀(兵庫県立大学)
- 9:30-10:00 ナショナリズム教育における貢献の言説と生徒の行為主体性
-ジャワ島の学校を事例として
岩淵 和祥(東京大学大学院)
- 10:00-10:30 「ボーダー」に生きる人々の教育戦略
-在カンボジア・ベトナム系住民と学校
萩巢 崇世(名古屋大学)
- 10:30-11:00 シンガポールにおける「市民・道徳教育」から「人格・市民性教育」への転換
-宗教理解学習の内容に着目して
金井 里弥(仙台大学)
- 11:00-11:30 ポル・ポト政権期後カンボジアにおける社会主義教育の構想
千田 沙也加(名古屋大学大学院)

北米地域 (2)

司会: 黒田 友紀 (日本大学)

- 9:00-9:30 カリフォルニア州におけるバイリンガル教育の再開
末藤 美津子 (東洋学園大学)
- 9:30-10:00 米国初等中等教育法の 50 年
ー連邦政府の役割の推移とその背景
吉良 直 (東洋大学)
- 10:00-10:30 アメリカにおける English Language Learners に対する教育の動向
市川 桂 (東京農工大学)
- 10:30-11:00 カナダ・オンタリオ州の標準テストに関する考察
ーテストの採点プロセスを中心に
森本 洋介 (弘前大学)
- 11:00-11:30 チャータースクール間のネットワーク構造
ーカリフォルニア州チャータースクールの事例から
寶來 敬章 (高田短期大学)
-

ヨーロッパ地域 (2)

司会: 園山 大祐 (大阪大学)

- 9:00-9:30 イギリス連立政権下における移民の子どもに対する教育政策の転換
ーアカデミー政策と地方当局の権限低下による影響
小山 晶子 (東海大学)
- 9:30-10:00 公平な教育機会と学力の保障を目指したドイツの学校制度改革
栗原 麗羅 (上智大学大学院)
- 10:00-10:30 多様性の視点から見たイタリアのコンピテンス
○杉野 竜美 (神戸大学) ○徳永 俊太 (京都教育大学)
- 10:30-11:00 ポルトガルにおける移民の現状とその教育課題
二井 紀美子 (愛知教育大学)
- 11:00-11:30 オランダのイスラーム学校におけるセクシャリティ教育教材の分析
見原 礼子 (長崎大学)

開発と教育(2)

司会: 川口 純(筑波大学)

- 9:00-9:30 作り上げられる途上国の教育不平等 — 援助配分の社会学的検討
隅田 姿(広島大学大学院・日本学術振興会特別研究員)
- 9:30-10:00 紛争影響国におけるセカンド・チャンス教育
— 東ティモールの事例から
○小松 太郎(上智大学) ○山口 奈緒子(JICA 研究所)
- 10:00-10:30 SDG 教育目標の評価に関する一考察
— 計測可能性(measurability) から評価可能性(evaluability) へ
米原 あき(東洋大学)
- 10:30-11:00 バングラデシュにおける代替的初等教育の現状
内川 明佳(総合研究大学院大学)
- 11:00-11:30 災害復興プロセスにおける住民の高台移転と学校再建
— フィリピン国タクロバン市における台風ハイアンからの教育復興過程
桜井愛子(東洋英和女学院大学)
-

初等・中等教育

司会: 澤野 由紀子(聖心女子大学)

- 9:00-9:30 修学パターンからみる中米エルサルバドル共和国の子どもたちの修学実態
— 修了学年と留年の関係に着目して
芦田 明美(東京大学大学院・日本学術振興会特別研究員)
- 9:30-10:00 養育者による教育支援が小学生の学業に与える影響
— モンゴル国の貧困層を対象として
中村 絵里(東京大学大学院)
- 10:00-10:30 文字言語・音声言語からみた授業コミュニケーションの比較考察
— アメリカ・イタリア・スロベニア・日本の数学・算数の授業分析
添田 晴雄(大阪市立大学)
- 10:30-11:00 共に学ぶ〈しんどい子〉の学校経験
— スコットランドの統合教育実践との比較から
伊藤 駿(大阪大学大学院)
- 11:00-11:30 マラウイの児童の学力追跡分析 — 学力向上の要因
谷口 京子(名古屋大学)

多文化教育

司会: 児玉 奈々 (滋賀大学)

- 9:00-9:30 移民経験と教育のしごと - 東ドイツ地域における移民女性の職業バイオグラフィ
木下 江美 (一橋大学)
- 9:30-10:00 外国人高校生の受け入れ校における特別な教育実践に関する考察
- 成績評価に対する教員の葛藤を中心に
大東 直樹 (神戸大学大学院)
- 10:00-10:30 ナショナル・カリキュラムとしての「共生教育」に関する一考察
- 南アフリカ共和国西ケープ州の高等学校の教育者の語りに着目して
坂口 真康 (兵庫教育大学)
- 10:30-11:00 バックグラウンドの違いによって生じる外国人保護者の教育観の差異
- 在日ペルー人保護者を対象とした質的調査より
デレク ケンジ ピニロス マツダ (上智大学大学院)
- 11:00-11:30 ドイツにおける教育と「多様性」
- 対応しなければならない課題としての「差異」に着目して
布川 あゆみ (東京外国語大学)
-

高等教育 (3)

司会: 佐藤 由利子 (東京工業大学)

- 9:00-9:30 オーストリアにおける高等教育の動向 - 職業アカデミー (Berufsakademie) について
田中 達也 (釧路公立大学)
- 9:30-10:00 スウェーデンにおける学生参画による大学教育の質保証
武 寛子 (愛知教育大学)
- 10:00-10:30 ロシア連邦における学術体制の改革
- 科学アカデミーの再編と高等教育の改革をとおして
遠藤 忠 (宇都宮共和大学)
- 10:30-11:00 国際的・横断的資格認証枠組みに基づく大学入学者選抜
- イギリス連合王国の大学による UCAS Tariff の活用と進学移動の要因に
焦点を当てて
飯田 直弘 (北海道大学)
- 11:00-11:30 現代における中国高等教育カリキュラムの改革に関する実証的研究
- 教養教育を中心として
羅 明坤 (西南女学院大学)

English 3 : Development and Education (2)

Chair person : Kazuo Kuroda (Waseda University)

- 9:00-9:30 A Cycle of Collective Actions by Parents, Community, School, and Pupils for Quality Learning –The Implication from Ghana
Kazuro Shibuya (Hiroshima University)
- 9:30-10:00 Community Participation in School Governance under the Free Primary Education Policy –A Case Study of the Maasai Community in Kenya
Mikiko Nishimura (International Christian University)
- 10:00-10:30 Parental Involvement in Early Childhood Education in Lao PDR –Case of Vientiane Province
Xiamdong Meng (Graduate Student, Kobe University)
- 10:30-11:00 Flourishing and Extinct Qur'anic Schools in Indonesia –A Case Study in Banjarnegara Regency of Central Java
Astuti Wiji (Graduate Student, Hiroshima University)
-

English 4 : Primary and Secondary Education

Chair person : Izumi Mori (University of Tokyo)

- 9:00-9:30 The Rise of Private School Markets and Parental Choice –Cases from Dhaka, Bangladesh and Delhi, India
Manjuma Mousumi (Graduate Student, Hiroshima University)
- 9:30-10:00 Decolonization of Basic Education in Plurinational State of Bolivia –Reviewing Reliability of its Implementation in Mathematics and PSP (Proyecto Socioproductivo)
Hiroki Ishizaka (Naruto University of Education)
- 10:00-10:30 Non-Cognitive Skills and Future Expectation –From the Longitudinal Study of Escuela Nueva in Colombia
○Takako Suzuki (Kyushu University) ○Chiaki Miwa (Hiroshima University)
Mikiko Nishimura (International Christian University)
Naoki Hatta (International Christian University)
- 10:30-11:00 Multicultural Education Values Under SHARI 'A(ISLAMIC) LAW –A Case Study of an Islamic School in Special Province of Aceh Indonesia
Bambang Arif Rahman (Graduate Student, Hiroshima University)

自由研究発表Ⅳ

2017年6月25日（日） 12：30－14：30

自由研究発表Ⅳ-1

6月25日(日) 12:30-14:30

教室: 314 教室

東南アジア地域(3)

司会: 乾 美紀(兵庫県立大学)

- 12:30-13:00 カンボジア観光舞踊が担う「正しい」クメール文化の表象と妥協
羽谷 沙織(立命館大学)
- 13:00-13:30 タイの外国人児童に対する就学保障の動向
- 「タイ国籍を持たない児童への初等教育指針 2014(仏暦2557)年」の分析を
中心に
○馬場 智子(岩手大学) 田中 真奈美(東京未来大学) 奴久妻 駿介(一橋大学大学院)
- 13:30-14:00 アセアン共同体の市民性教育
- デルファイ調査の比較分析
○平田 利文(大分大学) ○森下 稔(東京海洋大学)
- 14:00-14:30 フィリピンへのカトリック聖職者の移動の動向
- 語学学校に注目して
市川 誠(立教大学)
-

自由研究発表Ⅳ-2

6月25日(日) 12:30-14:30

教室: 315 教室

ヨーロッパ地域(3)

司会: 飯田 直弘(北海道大学)

- 12:30-13:00 イギリスの中等学校における職業的学習とキャリア・ガイダンスに対する公的支援
の課題 - 支援の必要な生徒のキャリア形成に焦点を当てて
○白幡 真紀(東北大学大学院・日本学術振興会特別研究員)
○飯田 明葉(東北大学大学院)
- 13:00-13:30 イタリア・ボローニャ市で学校教育に協力する外部主体の多様性
- A校の事例
高橋 春菜(盛岡大学)
- 13:30-14:00 ドイツ中等教育制度の透過性(Durchlässigkeit)に関する考察
卜部 匡司(広島市立大学)
- 14:00-14:30 フィンランドにおける学力保障の取組
渡邊 あや(津田塾大学)

自由研究発表IV-3

6月25日(日) 12:30-14:30

教室: 316 教室

教師教育・教員問題

司会: 牧 貴愛 (広島大学)

- 12:30-13:00 京畿道における「新しい教師研修プログラム (NTP)」の展開と課題
-教科研修年職務研修に着目して
出羽 孝行 (龍谷大学)
- 13:00-13:30 マレーシア、中国、日本における教員研修の特質
○鴨川 明子 (山梨大学) ○日暮 トモ子 (目白大学) ○鈴木 賀映子 (帝京大学)
- 13:30-14:00 ドイツ、デンマーク、オランダにおける教員研修の特質
○長島 啓記 (早稲田大学) ○佐藤 裕紀 (新潟医療福祉大学)
○吉田 重和 (新潟医療福祉大学)
- 14:00-14:30 カザフスタンにおける教員研修制度改革の批判的検討
-教育の借用・貸与理論の観点から
Kuanysh Tastanbekova (筑波大学)
-

自由研究発表IV-4

6月25日(日) 12:30-14:30

教室: 317 教室

教育と地域社会

司会: 日下部 達哉 (広島大学)

- 12:30-13:00 地域と学校の協働による子どものヘルスプロモーションと健康教育に関する考察
-スイス・ヴォー州の事例を通して
○赤星 まゆみ (西九州大学) ○堀家 香織
- 13:00-13:30 ケニア農村部における中等学校の発展
-学校を取り巻くコミュニティの役割に着目して
小川 未空 (大阪大学大学院)
- 13:30-14:00 ベトナムにおける障害児のための教育・医療施設の展開
-運営形態の類型から見た「社会化」政策の影響に着目して
白銀 研五 (京都大学大学院)
- 14:00-14:30 コミュニティ開発のためのパートナーシップと教育
-フィリピンの「Gawad Kalinga」のケースをもとに
渋谷 英章 (東京学芸大学)

自由研究発表Ⅳ-5

6月25日(日) 12:30-14:30

教室: 212 教室

理論・思想・歴史

司会: 森本 洋介 (弘前大学)

- 12:30-13:00 教員養成における教育思想家像の比較
ーアメリカ、イギリス、フランスの教員養成教材から
○上原 秀一 (宇都宮大学) ○原 圭寛 (弘前学院大学)
○間篠 剛留 (大阪成蹊大学)
- 13:00-13:30 「文化的リテラシー」論と「批判的リテラシー」論における関係の再構築
翟 高燕 (東アジア教育研究所)
- 13:30-14:30 マレー世界におけるコロニアリズムとイスラーム教育
ー植民地官僚の認識と経験から
○西野 節男 (名古屋大学)
○服部 美奈 (名古屋大学)

自由研究発表Ⅳ-6

6月25日(日) 12:30-14:30

教室: 219 教室

教育の機会

司会: 小松 太郎 (上智大学)

- 12:30-13:00 トルコにおける特別支援教育の現状と課題
三尾 真琴 (帝京科学大学)
- 13:00-13:30 多様性の中の平等への模索
ー自律的公設学校による学区を越えた学校運営が抱える課題に着目して
中島 千恵 (京都文教大学)
- 13:30-14:00 韓国版アフーマティブ・アクション
ーN. Fraser の「承認」と「再分配」に着目して
金 美連 (九州大学大学院)
- 14:00-14:30 エチオピアにおけるインクルーシブ教育
ーアディスアベバ市の小学校を事例に
利根川 佳子 (早稲田大学)

多国間比較

司会:田中 正弘(筑波大学)

- 12:30-13:00 日本、台湾、シンガポールの学校内掃除活動の比較分析
 - 「社会情動」的側面の育成に関する意味付け
 ○草薨 佳奈子(東京大学) 高橋 史子(東京大学) 譚 君怡(東京大学大学院)
 住野 満稲子(東京大学大学院・日本学術振興会特別研究員) 恒吉 僚子(東京大学)
- 13:00-13:30 歴史教育にみる合理的行動と社会化のタイポロジー
 - アメリカ、日本、イラン、フランスの比較から
 渡邊 雅子(名古屋大学)
- 13:30-14:30 国境を越えて機能するキャリア教育プログラムを、国際バカロレアが可能にするのか
 - 国際バカロレア・キャリア関連プログラム(IBC)を中心に
 ○中西 啓喜(早稲田大学) ○柳田 雅明(青山学院大学)
 飯田 直弘(北海道大学) 中島 悠介(大阪大谷大学) 御手洗 明佳(千葉大学)
 シム チュン キャット(昭和女子大学) 花井 渉(福井大学)

高等教育(4)

司会:近田 政博(神戸大学)

- 12:30-13:00 台湾の高等職業教育機関における入学者選抜方法
 廖 于晴(京都大学大学院)
- 13:00-13:30 タイのムスリム生徒に見る高等教育への接続に関する調査研究
 ○カンピラパーブ スネート(名古屋大学)
 ○鈴木 康郎(高知県立大学)
- 13:30-14:00 韓国における成人高等教育に関する政策形成
 松本 麻人(文部科学省)
- 14:00-14:30 インドにおける全国統一型大学入学試験の展開
 - 医学系統一入試(NEET)に着目して
 渡辺 雅幸(京都大学)

English 5 : Multicultural Education

Chair person : Tomoko Tokunaga (Keio University)

- 12 : 30－13 : 00 Are International Students Culturally Deficit in Japanese Society?
－Crossing Cultures Without the Professor's Intervention
Naomi Tsunematsu (Hiroshima University)
- 13 : 00－13 : 30 A comparative Study on Intercultural Competencies of Swiss and Japanese Students
○Aoi Nakayama (Osaka Kyoiku University)
○Abdeljalil Akkari (University of Geneva)
- 13 : 30－14 : 00 A Study of English Language Teaching Motivation in Cambodia
Sreynet UN (Graduate Student, Hiroshima University)
- 14 : 00－14 : 30 Multicultural Perspectives through the Eyes of Youth
－An Analysis of Children's Writing in Japan and South Korea
JiYoung Seo-Cense (Tochigi Teachers Association)

課題研究 I ・ II

2017年6月25日（日） 14：45－17：00

課題研究 I

グローバル化時代における大学の国際比較 —世界大学ランキングを越えて—

日時：2017年6月25日（日） 14時45分～17時00分

場所：東京大学本郷キャンパス 法文1号館 法学部21番教室

パネリスト

- | | |
|--------------|---|
| 石川 真由美（大阪大学） | 「国際競争と日本の大学—ランキングという鏡を通して」 |
| 吉永 契一郎（金沢大学） | 「上位校からみた世界大学ランキング」 |
| 米澤 彰純（東北大学） | 「脱群盲評象とグローバル・スタディーズ
—比較高等教育研究の現代的挑戦」 |

司会・趣旨説明 福留 東土（東京大学）

趣旨

日本の比較教育学研究にとって大学の国際比較は主要な課題のひとつであり続けてきた。現在、グローバル化の潮流の中で、日本の大学はこれまでになかった形で世界の大学との国際競争に直面している。そうした中で、大学の国際比較研究にも新たな考察の視点が求められている。

現代の国際競争の特徴は、研究者による学術上の卓越性を巡る競争を越えて、機関を単位とする競争となり、それが学術研究のあり方や機関の行動に直接的な影響を及ぼすようになってきていることである。さらに、国によっては大学の国際競争が国家政策に謳われ、国家の威信とも結びつく形で展開されている。その象徴的な存在は21世紀に入って登場した国際大学ランキングであり、ワールドクラス・ユニバーシティ（WCU）の概念である。とりわけ、欧米へのキャッチアップを目指すアジア諸国においてランキングの及ぼす影響は大きい。ランキングが、大学の現状に関わる情報を消費者市場に提供するにとどまらず、上位ランクに位置する大学数の増加を目指して国家によるテコ入れが行われ、さらにはランキングに使われる指標が個々の機関による戦略や行動に影響を及ぼすに至っている。

以上のような動向の一方で、ランキングによる国際比較に批判的な眼差しを向ける動きも強い。ひとつには、ランキングが重視する英語論文に基づく国際的な競争関係を、学術の本来的な使命に立ち返って、相対的な視点から捉えようとする取組がある。また、ランキングに対する意識は地域によって異なり、競争だけでなく、タイプの類似する大学相互の協調関係を促進しながら大学の発展可能性を探ろうとする考え方があふれている。さらには、複雑な現代的様相の中で、国際比較は多様な視角を提起するようになっており、「比較」の意義を再考する必要性が増している。

こうした問題意識を背景に、本企画では、国際比較の観点から高等教育研究を進めておられる会員各氏に登壇を依頼し、現代における大学の国際比較のあり方について議論を深めたい。会員各位の積極的な参加を得ながら、日本の大学にとって建設的な議論が導かれることを期待したい。

課題研究Ⅱ

グローバル化時代における教育を考える（Ⅱ）

－才能教育の視点から－

日時：2017年6月25日（日） 14時45分～17時00分

場所：東京大学本郷キャンパス 法文1号館 法学部22番教室

パネリスト： 南部 広孝（京都大学） 「中国における才能教育の展開」
石川 裕之（畿央大学） 「グローバル化時代における
韓国の才能教育の発展と今後の方向性」
原 清治（佛教大学） 「我が国における才能教育の動向」

司会者：山内乾史（神戸大学）

趣旨：（本課題研究Ⅱは研究委員会の企画によるものです）

本課題研究は昨年度に続き、研究委員会が取り組んでいる研究課題である「グローバル化時代における教育を考える－才能教育の視点から－」に関する第二回目の報告です。

従来の日本のように受験学力一辺倒ではなく、さまざまな才能を個性とみなす風潮は、ここ30年ほど「特別な教育ニーズ」に応える教育の中で重視され続けています。PISAテストの国際的影響力も煽りを後押ししていると考えられます。

日本においては、戦後長らく民主的で平等な教育が志向されてきました。いわゆる「偏差値輪切り体制」の中で、「受験学力」を軸にした体制が強化され続けてきました。しかし21世紀に入ってから、大都市圏の名門公立高校を中心に「特進コース」の設置など、全体的にはないにせよ、公立学校の底上げに力が入れられてきました。その典型的な例が「スーパー・サイエンス・ハイスクール」とか近年の「スーパー・グローバル・ハイスクール」です。とくに後者はグローバル化する世界への対応としてグローバル人材の育成を掲げた高校であり、これに対応する形で大学にも「スーパー・グローバル・ユニバーシティ」が設けられております。このグローバル化の波の中で、グローバル人材の育成という目標の中で、才能教育はどのように方向づけられているのかを比較検討するのが、本課題研究Ⅱのねらいです。

今年度は東アジア三か国について検討します。南部会員が紹介する中国は、言う間でもなく社会主義国家です。一般論として、社会主義国家においては個々人の優れた才能を貴重な社会的資源とみなし、その開発を国家の発展と結びつけて考える傾向が、自由主義国家とは異なる意味で強くみられます。中国においても「素質教育」等の営みがあったことは広く知られていますが、現在、どのような流れになっているのかを紹介していただきます。また、石川会員が紹介する韓国においては、英才教育振興法(2000年)を成立させ、釜山に国立の英才学校ができるなど、才能教育に国家として取り組んできた実績があります。その実績を踏まえて今後どのような方向に才能教育が向かおうとしているのかを紹介していただきます。最後に原会員には南部、石川両会員の報告を受けて、日本の才能教育の流れと比較してまとめていただきます。

どうか会員の方々におかれましてはご参加くださいますよう、お願い申し上げます。

最新刊 アセアン共同体の市民性教育

平田利文編著 A5・上製・二五二頁・三七〇〇円

タイの人権教育政策の理論と実践

馬場智子著 A5・上製・二〇〇頁・二八〇〇円

統一ドイツ教育の多様性と質保証

坂野慎一著 A5・上製・二四四頁・二八〇〇円

カナダの女性政策と大学

犬塚典子著 A5・上製・二八八頁・三九〇〇円

アメリカ公立学校の社会史

W・リース著 浅沼茂・小川佳乃監訳 A5・上製・五二八頁・四六〇〇円

アメリカ学校財政制度の公正化

笠沙知章著 A5・上製・三二八頁・三四〇〇円

アメリカ 間違いがまかり通っている時代

公立学校の企業型改革への批判と解決法 D・ラヴィッチ著 末藤美津子訳 A5・上製・五二六頁・三八〇〇円

ドイツ統一・EU統合とグローバルizm

木戸裕著 A5・上製・六二四頁・六〇〇〇円

EUにおける中国系移民の教育

山本須美子著 A5・上製・三七六頁・四五〇〇円

中国における大学奨学金制度と評価

王 帥著 A5・上製・三三〇頁・五四〇〇円

文革後中国基礎教育における「主体性」の育成

李 霞著 A5・上製・二〇八頁・二八〇〇円

インドの無認可学校研究

「公教育を支える」影の制度 小原優貴著 A5・上製・三三三頁・三三〇〇円

学生エリート養成プログラム

「アメリカ」日本・中国・北垣郁雄編著 A5・上製・二八〇頁・三六〇〇円

最新刊 高等教育の質とその評価

山田礼子編著 A5・上製・二八〇頁・三二〇〇円

アウトカムに基づく大学教育の質保証

「チューニングとアセスメント」にみる世界の動向 深堀聰子編著 A5・上製・三四四頁・三六〇〇円

チュートリアル の伝播と変容

「イギリスからオーストラリアの大学へ」 竹腰千絵著 A5・上製・二四四頁・二八〇〇円

トランスナショナル高等教育の国際比較

「留学概念の転換」 杉本均編著 A5・上製・三五二頁・三六〇〇円

東アジアの大学・大学院入学者

「選抜制度の比較」 中国・台湾・韓国・日本 南部広孝著 A5・上製・二〇八頁・三二〇〇円

東アジアにおける留学生移動の

パラダイム転換 「大学国際化」の英語プロ 嶋内佐絵著 A5・上製・三二二頁・三六〇〇円

大学理念と大学改革

「ドイツと日本」 金子勉著 A5・上製・二八四頁・四二〇〇円

オーストラリアの教員養成とグローバルizm

「多様性と公平性の保証に向けて」 本柳とみ子著 A5・上製・三三二頁・三六〇〇円

比較教育学の理念・方法・展開

比較教育学の地平を拓く

「多様な字問観と知の共働」 山田肖子・森下稔編著 A5・上製・四五六頁・四六〇〇円

比較教育学 越境のレッスン

馬越徹著 A5・上製・二五二頁・三六〇〇円

国際教育開発の研究射程

「持続可能な社会」のための比較教育学の最前線 北村友人著 A5・上製・二四〇頁・二八〇〇円

比較教育学事典

日本比較教育学会編 B5・上製・四五六頁・二二〇〇円

ユネスコ国際教育政策叢書

全12巻完結・各A5・並製

ユネスコ「教育計画の基礎シリーズ」から、特に日本、欧米など先進国が当面する問題を焦点化した12冊を厳選、さらに当該テーマの専門研究者である訳者によるわが国読者向け解説を付した、学生・教員・研究者、中央・地方行政担当者など必読の叢書。 編者 黒田一雄・北村友人 編集顧問 鈴木慎一・廣里恭史

- 1 教育政策立案の国際比較 北村友人訳・解説 二〇〇〇円
- 2 グローバリゼーションと教育改革 吉田和浩訳・解説 二〇〇〇円
- 3 紛争・災害後の教育支援 小松太郎訳・解説 一六〇〇円
- 4 塾・受験指導の国際比較 鈴木慎一訳・解説 一五〇〇円
- 5 幼児教育への国際的視座 浜野隆訳・解説 二〇〇〇円
- 6 国際学力調査と教育政策 野村真作訳・解説 一六〇〇円
- 7 教育におけるジェンダー平等 結城貴子訳・解説 一五〇〇円
- 8 教育分権化の国際的潮流 西村/笹岡訳・解説 二〇〇〇円
- 9 HIV/エイズと教育政策 勝間清訳・解説 一五〇〇円
- 10 途上国における複式学級 鈴木隆子訳・解説 二〇〇〇円
- 11 教育省のガバナンス 山田尚子訳・解説 二〇〇〇円
- 12 教育の経済分析 小川啓一訳・解説 一四〇〇円

※全12巻セット特価一四〇〇〇円 直接東信堂へご注文下さい。

続刊(仮題含む)

教育と比較の眼

江原武一著 多様性と向きあうカナダの学校 児玉奈々著

英国の教育

日英教育学会編 グローバル教育の全体像 北村友人監訳

ポスト2015年の教育開発

川口純編 教育開発から教育改革へ

アメリカ教師教育史

教職の女性化と専門職化の相克

佐久間亜紀 著



今なお女性が多くを占め、専門性より「実践的」養成を求める声に晒されるアメリカの教師教育。19世紀州立師範学校で葛藤を生き、越え出ようと模索した女性教師たちを追うことによって、こんにち日本の教育改革でも繰り返し問われる教師教育の専門性、女性の労働の問題を照射する。

A5判・516頁/10000円

就学告諭と近代教育の形成

勸奨の論理と学校創設

川村 肇・荒井明夫 編

学制の発布をうけ府県知事や地域指導者から、学校なるものを設立し、そこに子弟を通わせるために発された「就学告諭」。日本近代教育の始点を示す基本史料の発掘と分析からその全貌を解明。

A5判・596頁/12000円

カリキュラム・イノベーション

新しい学びの創造へ向けて

東京大学教育学部カリキュラム・イノベーション研究会 編

少子化、価値観の変容など、激変する現代に学校で何を学ぶか——東大教育学部のスタッフが、教育現場との対話を通して、より多様で社会的レリバンスのあるプログラムを提案。

A5判・368頁/3400円

あらゆる学問は保育につながる

発達保育実践政策学の挑戦

秋田喜代美 監修 山邊昭則・多賀巖太郎 編

少子化や保育者不足、教育格差の拡大など、現在進行形の課題に対処するため、教育学、心理学、脳科学などの最新の学術的知見を集めて、学際的に立ち上げる。

四六判・400頁/3800円

保育学講座 [全5巻]

日本保育学会 編

実践と研究をつなぎ、最新の学術的成果にもとづいた学問分野としての保育学の知見と展望を系統的に示す羅針盤。

A5判・平均328頁/各巻2800円

- ① 保育学とは —— 問いと成り立ち
- ② 保育を支えるしくみ —— 制度と行政
- ③ 保育のいとなみ —— 子ども理解と内容・方法
- ④ 保育者を生きる —— 専門性と養成
- ⑤ 保育を支えるネットワーク —— 支援と連携

東京大学出版会

〒153-0041 東京都目黒区駒場 4-5-29
TEL 03-6407-1069 FAX 03-6407-1991

<価格税別>

http://www.utp.or.jp/

途上国世界の教育と開発 公正な世界を求めて

小松太郎 [編] A5判・定価(本体1,780円+税)

- 国際教育開発分野(「途上国の教育問題」や「国際教育協力」)について体系的にまとめ、かつ学生自らの課題探求を支える理論や分析視点を提供する基礎図書。
- 「ポスト2015年」(2015年の国際会議で採択された新しい教育開発目標)の議論を踏まえた最新の内容としており、途上国だけでなく、世界が持続するための先進国教育のあり方についても問い直す一冊。



比較教育研究 何をどう比較するか

マーク・ブレイ/ボブ・アダムソン/マーク・メイソン [編著] 杉村美紀/大和洋子/前田美子/阿古智子 [訳] A5判・定価(本体2,500円+税)

- 「比較研究」という方法論に焦点を当て、具体的な研究の切り口や、伝統的及び新しい手法をわかりやすく提示。教育に限らず、他の学問分野においても幅広い汎用性をもつ一冊。
- これまでの欧米中心の比較教育ではなく、香港大学比較教育研究センター(CERC)が中心となって築き上げてきたアジアから発信する比較教育学研究は、日本へ与えるインパクト大。学術交流の進展も期待される。
- 巻末には、日本の比較教育研究の動向を考察した「補論」を収録。

多文化共生社会におけるESD・市民教育

田中治彦・杉村美紀 [共編] A5判・定価(本体2,000円+税)

- 「国連・持続可能な開発のための教育(ESD)の10年」の終了に当たり、この10年間を振り返って、日本や諸外国の教育問題、ESDの現状と課題を解説。
- 「多文化共生」「持続可能な社会と教育」「市民教育」をテーマに、グローバル時代のさらなる教育研究・実践の可能性を示唆。

上智大学新書 002

激動するアジアの大学改革 —グローバル人材を育成するために

増補版

北村友人/杉村美紀 [共編] 新書判・定価(本体1,120円+税)

- 国際化する高等教育市場のなかで浮き上がる人材流動や質保証の問題。各国の現状と課題を紹介し、日本とアジアの未来について考える。

<発行>

SUP上智大学出版
http://www.sophia.ac.jp

<発売>

ぎょうせい

〒136-8575 東京都江東区新木場 1-18-11
TEL.0120-953-431 FAX.0120-953-495
https://shop.gyosei.jp/

新たな時代のESD サステナブルな学校を創ろう

世界のホールスクールから学ぶ
永田佳之 編著・監訳 曾我幸代 編著・訳 ©2500円
日本の学校や取り巻く地域社会をより持続的にするための理論と実践的な手順やツールを具体的に紹介した1冊。



トランスナショナル移民のノンフォーマル教育 女性トルコ移民による内発的な社会参画

丸山英樹 著 ©6000円
ベルリンのトルコ女性移民たちによる社会福祉事業による、公教育以外の教育による、ムスリム移民の社会統合の過程を究明する。



ヨーロッパにおける移民第二世代の学校適応 スーパー・ダイバーシティへの教育人類学的アプローチ

山本須美子 編著 斎藤里美、布川あゆみ、小山晶子、見原礼子、石川真作、植村清加、渋谷努、安達智史、鈴木規子 著 ©3600円
ヨーロッパ諸国における移民第二世代の学校適応をめぐる実態とその背後のある要因を、教育人類学的アプローチから明らかにする。



外国人の子ども白書

権利・貧困・教育・文化・国籍と共生の視点から
荒牧重人、榎井縁、江原裕美、小島祥美、志水宏吉、南野奈津子、宮島喬、山野良一 編 ©2500円

南三陸発！ 志津川小学校避難所

59日間の物語 ～未来へのメッセージ～
志津川小学校避難所自治会記録保存プロジェクト実行委員会、志水宏吉・大阪大学未来共生プログラム 編 ©1200円

日本の大学、崩壊か大再編か

財務の視点から見えてくる大学の実態と将来像
野田恒雄 著 ©2400円

移民の子どもと学校

OECD 編著 布川あゆみ、木下江美、斎藤里美 監訳
三浦綾希子、大西公恵、藤浪海 訳 ©新刊

生きるための知識と技能6 OECD生徒の学習到達度調査(PISA)
2015年調査国際結果報告書 国立教育政策研究所 編 ©3700円

PISA2015年調査 評価の枠組み OECD生徒の学習到達度調査
経済協力開発機構(OECD) 編著 国立教育政策研究所 監訳 ©3700円

21世紀のICT学習環境 生徒・コンピュータ・学習を結び付ける
経済協力開発機構(OECD) 編著 国立教育政策研究所 監訳 ©3700円

TIMSS2015 算数・数学教育／理科教育の国際比較
国際数学・理科教育動向調査の2015年調査報告書
国立教育政策研究所 編 ©4500円

図表でみる教育 OECDインディケータ(2016年版)
経済協力開発機構(OECD) 編著 ©8600円

学びのイノベーション 21世紀型学習の創発モデル
OECD教育研究革新センター 編著 有本昌弘 監訳 多々納誠子、小熊利江 訳 ©4500円

21世紀型学習のリーダーシップ
イノベティブな学習環境をつくる
OECD教育研究革新センター 編著 木下江美、布川あゆみ 監訳
斎藤里美、本田伊克、大西公恵、三浦綾希子、藤浪海 訳 ©4500円

アートの教育学 革新型社会を拓く学びの技
OECD教育研究革新センター 編著 篠原康正、篠原真子、巖岩晶 訳 ©3700円

若者のキャリア形成
スキルの獲得から就業力の向上、アントレプレナーシップの育成へ
経済協力開発機構(OECD) 編著 菅原良、福田哲哉 監訳 ©3700円

経験資本と学習 首都圏大学生949人の大規模調査結果
岩崎久美子、下村英雄、柳澤文敬、伊藤素江、村田維沙、堀一輝 著 ©3700円

明石書店

〒101-0021 東京都千代田区外神田6-9-5
<http://www.akashi.co.jp/>

TEL 03-5818-1171 FAX 03-5818-1174

*図書目録送呈 *価格税別

比較教育社会学の イメージ

原清治・山内乾史・杉本均 編著

本体
2000円
264頁



基礎から学ぶ比較教育学

長島啓記 編著

本体
2000円
242頁



学修支援と高等教育の質保証I

山内乾史 編著 ●本体2100円 208頁

学修支援と高等教育の質保証II

山内乾史・武寛子 編著 ●本体2300円 234頁



多文化間共修

—多様な文化背景をもつ大学生の
学び合いを支援する

坂本利子・堀江未来
米澤由香子 編著

本体
1900円
224頁



学校学力から生涯学力へ

前田耕司・佐藤千津 編著 ●本体1700円 160頁

生涯学習と多文化・多民族教育の研究

岩崎正吾 編著 ●本体1900円 160頁

途上国における基礎教育支援

上巻 一国際的潮流と日本の援助

小川啓一・西村幹子 編著 262頁

下巻 一国際的なアプローチと実践

廣里恭史・北村友人 編著 270頁

●本体各2800円



「ESDでひらく未来」シリーズ 持続可能な地域と学校のための 学習社会文化論

降旗信一 編著 ●本体1900円 160頁

「学校教育と社会」ノート

—教育社会学への誘い

山内乾史 著 ●本体1800円 184頁

学生の学力と高等教育の質保証I

山内乾史 編著 228頁

学生の学力と高等教育の質保証II

山内乾史・原清治 編著 208頁 ●本体各2100円



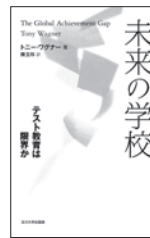
〒153-0064 東京都目黒区下目黒3-6-1
<http://www.gakubunsha.com>

学文社

Tel 03-3715-1501(代) Fax 03-3715-2012
E-mail: eigo@gakubunsha.com

未来の学校——テスト教育は限界か

未来の学校



トニー・ワグナー 著
陳玉玲 訳
四六判並製・432頁
本体3200円

急速に進むグローバル化社会で必要とされる能力は、学校で広く行われているテストのための教育では身につかない。現代、そして未来の社会で、本当に生き残るための七つのスキルとは。アメリカの事例から日本の教育のあり方を考える。

高等教育の社会学



パトリシア・J・ガンボート 著
伊藤彰浩・橋本鉞市・阿曾沼明裕 監訳
A5判上製・480頁
本体5400円

バートン・クラークの論文を出発点に、アメリカでの高等教育を対象とした社会学的研究の動向と課題、展望を示す。高等教育機会の不平等、カレッジ・インパクトなどに加えて、今後の制度論、アカデミック・ワークなどの展開を整理する。

アメリカの高等教育



デレック・ボック 著
宮田由紀夫 訳
A5判上製・552頁
本体5800円

ハーバード大学の学長を務めた著者が、アメリカの高等教育を包括的に分析する。科学技術分野などでの新発見、専門知識の遂行や将来のリーダーの養成に貢献する大学。その本質的な役割を問い、現在直面する問題や挑戦を考察する。

アメリカの産学連携と学問的誠実性



宮田由紀夫 著
A5判上製・264頁
本体4200円

産学連携の先進国アメリカにおける不正や捏造の実態を考察。教育・研究や社会貢献における不正行為や利益相反を減らしつつ、大学の使命の一つである社会貢献や便益を最大にするにはどのような方策・規制が有効かを考える。

大学教育再生とは何か

——大学教授職の日米比較



有本章 著
A5判上製・592頁
本体6200円

中世の大学から近代の大学に至る歴史に学びつつ、米国と比較した日本の大学や、その担い手である大学教授職の現状と課題を社会的に分析する一冊。長年、高等教育研究に携わってきた著者による、二一世紀の大学への提言。

玉川大学出版部

〒194-8610 東京都町田市玉川学園6-1-1 TEL 042-739-8935 FAX 042-739-8940
http://www.tamagawa-up.jp/ [価格税別]

園山大祐 編著

教育の大衆化は何をもたらしたか

A5判上製340頁 本体3500円
フランス社会の階層と格差
教育改革による教育の大衆化は、フランス社会にいかなる結果をもたらしたのか。学歴インフレの課題と、階層間の格差拡大を検証する。

森千香子・エレンルバイ 編著

国境政策のパラドクス

A5判上製272頁 本体4000円
国境を越える人は年2億人以上。世界を飛び回るビジネスマンがいる一方、命がけて越境を試みる者もいる。国境政策はどうあるべきか。

中野裕二・森千香子・エレンルバイ・浪岡新太郎・園山大祐 編著

排外主義を問いなおす

A5判上製272頁 本体4500円
フランスにおける排除・差別・参加
排外主義は、過激な移民・外国人排斥運動だけでなく、社会のあらゆる場面に存在する。その根源や構造を分析し、新たな社会形成の道筋を探る。

恒吉僚子

子どもたちの三つの「危機」

四六判上製232頁 本体2200円
国際比較から見る日本の模索
「日本型のしつけと教育の再検討。国際的に評価されている日本の強さを生かす為には、学力・社会的価値を軸に混沌とする今日の子どもたちの状況へ新たな視点を提示する。

額賀美紗子

越境する日本人家族と教育

A5判上製240頁 本体4000円
「グローバル型能力」育成の葛藤
グローバルな変化と多様性を生き抜く力はどうに育つのか? 国や文化の境界を跨ぐ日本人家族の教育戦略とアイデンティティに迫る。

中澤 渉・藤原 翔 編著

格差社会の中の高校生

A5判上製196頁 本体3200円
家族・学校・進路選択
高世代とその母親は何を考えたような将来像を描いているのだろうか。全国調査データから格差社会における親子関係のあり方や、学校の果たす役割を考察する。

元森絵里子

語られない「子ども」の近代

A5判上製256頁 本体3200円
年少者保護制度の歴史社会学
「子ども」とは何か。「大人」との境とは何か。戦前期日本の諸制度制定過程の議論を掘り起こし、年少者像の取扱いと複雑性を描き直す。

中澤 渉

なぜ日本の公教育費は少ないのか

四六判上製404頁 本体3800円
教育の公的役割を問いなす
第36回サントリー学芸賞。財政難にあえぐ日本社会への具体的な教育社会学的提言。民主主義社会の基礎となる公教育システムを支える財政的基盤を構築するためのヒントを探る。



勁草書房

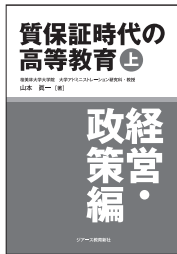
http://www.keioshobo.co.jp

〒112-0005 東京都文京区水道2-1-1 TEL 03-3814-6861 FAX 03-3814-6854

*表示価格には消費税が含まれておりません。



国立大学法人法コンメンタール 改訂版
 国立大学法人法制研究会 編著
 ISBN978-4-86371-400-7
 A5判/816頁
 定価 6,750円(本体6,250円+税)



質保証時代の高等教育(上) 経営・政策編
 山本 眞一 著
 ISBN978-4-86371-230-0
 B6判/332頁
 定価 2,484円(本体2,300円+税)

おかげさまで
創刊18周年!



諸外国の教育行財政 —7か国と日本の比較—
 文部科学省 編著
 ISBN978-4-86371-246-1
 A4判/372頁
 定価 3,996円(本体3,700円+税)



質保証時代の高等教育(下) 教育・研究編
 山本 眞一 著
 ISBN978-4-86371-237-9
 B6判/364頁
 定価 2,484円(本体2,300円+税)



アジアの教員 変貌する役割と専門職への挑戦
 小川佳万・服部美奈 編著
 ISBN978-4-86371-188-4
 A5判/328頁
 定価 2,376円(本体2,200円+税)



質保証時代の高等教育 続
 山本 眞一 著
 ISBN978-4-86371-391-8
 B6判/280頁
 定価 2,484円(本体2,300円+税)

- A4判/40~52頁
- 月2回発行
- 月額購読料 3,000円 (送料・税別)



ジ アース
教育新社

〒101 0054 東京都千代田区神田錦町1-23 宗保第2ビル
 TEL 03-5282-7183/FAX 03-5282-7892
 E-mail info@kyoikushinsha.co.jp URL http://www.kyoikushinsha.co.jp/

弊社発行の学術洋書新刊アナウンスメントが2017年4月より電子版となりました

『極東書店ニュース』電子版のご案内

弊社では、主に英・米・独・仏の人文・社会科学の学術洋書を専門に取り扱っています。

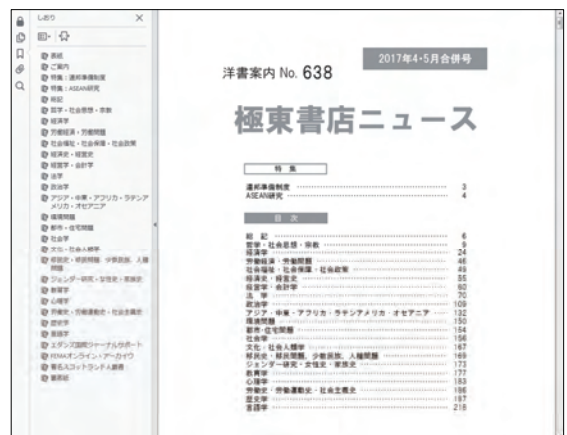
この洋書案内「極東書店ニュース」では、新刊およびこれから刊行予定の学術書を厳選してご案内しております。

1954年6月に発刊され、今では600号を超える「極東書店ニュース」は、優れた新刊案内カタログとして、研究者をはじめ多くの方から高い評価を頂いております。

【極東書店ニュース電子版の特徴】

- 目次から各分野へのダイレクトリンク
- PDF内でのキーワード検索、および印刷が可能

紙面レイアウトは従来の冊子体と同様の電子版の配信は
<http://www.kyokuto-bk.co.jp/newsreg.html> より申込可能です
 もしくは最寄りの弊社営業員までお申し付け下さい



株式会社 極東書店



FAR EASTERN BOOKSELLERS
 (Kyokuto Shoten Ltd.)
 Kanda P.O. Box 72, Tokyo 101-8672, Japan

〒101-8672 東京都千代田区三崎町2-7-10 帝都三崎町ビル ☎03(3265)7531 FAX03(3556)3761
 URL: <http://www.kyokuto-bk.co.jp> E-mail: info@kyokuto-bk.co.jp
 〒530-0051 大阪市北区太融寺町1-17 梅田アスカビル ☎06(6362)5515 FAX06(6362)8882
 〒604-0985 京都市中京区麩屋町通丸太町下る 井口ビル ☎075(231)2093 FAX075(231)3859
 〒810-0073 福岡市中央区舞鶴1-3-14 小榎ビル ☎092(751)6956 FAX092(741)0821

Springer eBooks in Education

Springer eBooksとは

- 1840年代～最新刊まで、書籍を全て電子化
- 出版年ごと、分野ごとにパッケージ化した買い切り製品
- Palgrave Macmillanブランドを含む、広範な領域を網羅
- ブックシリーズ、テキストやモノグラフ、レファレンスなどあらゆる種類の書籍を収録
- 一冊まるごとでも章ごとでもダウンロードでき、時、場所、デバイスを選ばず利用可能
- 研究目的にも教育目的にも利用範囲が広がります

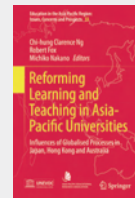
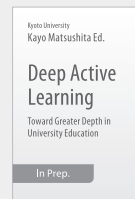
Education Collection

出版年	Palgrave eBooks					Springer eBooks		
	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年予定
出版点数	52	36	42	56	84	78	457	508

ご所属の機関で使えるeBooksもお調べします。より詳しい資料をご希望の方はお気軽にご連絡ください。

シュプリンガー・ネイチャー インスティテューショナル・マーケティング

• Tel: 03-4570-6710 • Fax: 03-3267-8746 • Email: market@springer.jp



springer.com

Part of **SPRINGER NATURE**

Routledge Research in International and Comparative Education

This is a series that offers a global platform to engage scholars in continuous academic debate on key challenges and the latest thinking on issues in the fast growing field of International and Comparative Education

Globalization and Japanese "Exceptionalism" in Education
Insider's Views into a Changing System
Edited by **Ryoko Tsuneyoshi**

China's Global Rise
Higher education, diplomacy and identity
By **Suyan Pan**

Educational Policy Borrowing in China
Looking West or looking East?
By **Charlene Tan**

The Making of Indigeneity, Curriculum History, and the Limits of Diversity
By **Ligia Lopez**

Faculty Development in Developing Countries
Improving Teaching Quality in Higher Education
Edited by **Cristine Smith, Katherine Hudson**

The Critical Global Educator
Global citizenship education as sustainable development
By **Maureen Ellis**

<https://www.routledge.com/series/RRICE>

 **Routledge**
Taylor & Francis Group

日本比較教育学会 第 53 回大会準備委員会

委員長： 恒吉 僚子

副委員長：北村 友人

福留 東土

委員： 額賀 美紗子

森 いづみ

高橋 史子

越智 豊

草薙 佳奈子

中村 絵里

住野 満穂子

塚田 亜弥子

岩渕 和祥

幾田 英夫

発行：日本比較教育学会第 53 回大会準備委員会

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学大学院教育学研究科・北村友人研究室気付

日本比較教育学会第 53 回大会準備委員会 宛

E-mail: jces53.tokyo@gmail.com

URL: <http://www.gakkai.ne.jp/jces/taikai/53/>
